

こうとう民報

2016年8月号 141

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行
こうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

2017年核兵器禁止条約締結交渉へ



核の傘に固執する安倍首相
「核先制不使用宣言」に反対の意向

広島・長崎に原爆が投下され71年。核兵器廃絶を求め国際的な運動の高まりの中で原水爆禁止世界大会が、広島で開かれました。大会最終日に「広島からの呼びかけ」を採択、「ヒバクシャ国際署名」を大きく広げ、核廃絶に向けて国際的に核保有国に迫っていく大運動を提起しました。

安倍首相は、広島と長崎の平和式典で「核兵器のない世界」に向け「努力を重ねていく」と述べる一方で、オバマ大統領が検討している核兵器の先制不使用宣言に、首相自ら「反対」の意向を伝えていたことが米ワシントンポスト紙の報道で明らかになりました。

写真は、江東区から参加した代表団のみなさん



山崎区長は、第2回区議会定例会に、地下鉄8号線建設基金5億円積み増し、調査費2千7百万円の補正予算案を提出しました。

地下鉄8号線が国の交通政策審議会で「最優先整備路線」に位置付けられたのを受けて、整備促進を図るのが目的とい

しかし、事業の規模も枠組みも全く決まっています。そうしたも

【特別寄稿】 都政これからは （上）

日本共産党都議会議員
あぜ上三和子



初の野党共闘が成立

今回の都知事選挙では、初めての市民と野党の共闘の闘いで、今後にかさねるべき課題もあると思いますが、国政選挙にとどまらず地方選挙の様相を一変させる歴史的闘いとなりました。

舛添疑惑の徹底説明

私たちが都議団は、新しい小政調整交付金のうちの保留分があてられました。保留分は「当初予算編成時に全額確定できない」「年度途中の新たな行政需要に対応する」として、予算書に歳入として計上されない、いわば隠し財産のようなものです。その金額は毎年数十億円に上り、例年、3月の最終補正予算で「剰余金」として各種

地下鉄8号線建設基金積み増し 不要な溜め込み金「保留分」

また街づくりの調査を外部委託で行うことも問題です。

多額の積み立ては、問題

補正予算の財源には都区財

し、二度とこうした政治と金の問題が起らない具体策を講ずることが求められています。

小池知事は、「都政改革対策本部」を立ち上げるとして、第三者委員会については現在検討中とのこと。舛添前知事問題を棚上げさせない、審査会や監理団体も含めた情報公開など、都民に開かれた風通しの良いクリーンな都政にするために全力を尽くします。

安心して暮らせる都政へ

税金の使い方も大きく問われています。都のお金は、13兆円、スウェーデンの国家予算並みの規模です。「都民ファーストの視点」を大切にしながら、安心して暮らし続けられる都政するための予算編成に変える必要があります。

例えば住民も議会も区長も見直しを求めているのに強行している都市計画道路計画で、今年度だけでも2千億円の予算。それを認可保育園や、大學生の奨学金制度、介護保険料の軽減などに回すことです。

区民生活支える予算へ

暮らしが大変な区民生活を支えるために日本共産党区議団が提出した平成28年度予算案に対する修正額は、7億8千万円増です。多額の「保留分」を抱え込み、不要な溜め込みを改めて、区民の切実な願いにこたえるべきです。

都心で37度、灼熱の夏日も71年目の終戦記念日を過ぎると吹く風も秋めいてきました

【欄外】

野党共闘が実現したものの告示前夜の決定。舛添疑惑への1千万人余の有権者の怒りは「小池の乱」を演出してマスコミを賑わした候補への支持に集約される残念な結果でした。しかし、野党共闘は「四つのよし」や「非核平和都市宣言」などで都政を転換する政策で一致し、「オール与党体制」に風穴を開けました。さらに、大型開発政策を継続する新知事への都民の審判は厳しくなり、来年には知事選に敗北した自公を追い詰めるチャンスとなる都議選があります。内閣改造では、二代目となる女性防衛相に稲田氏が就任。「国を守るために血を流す覚悟」を説く国粋主義者が「女性が輝く時代」の象徴なのか。選挙直後、団地の集合ポストに「日本人の命を守れない憲法9条を改正しましよ」とのチラシ（日本チラシ同好会）が投かんされ、あるテレビ局は自衛官募集のCMを流し始めました。戦後最大の危機に立ち向かう野党共闘には、かつてない連帯と信頼の絆が生まれています。江東区でも4・6集会を契機に、自公を除く各党派の議員が市民団体とともに都知事選を取り組むなかで、その絆を育んでいます。今後相互の不断の努力が求められます。

（以下次号につづく）

児童疎開



概説
江東の歴史
(59)

太平洋戦争末期、米軍の空襲が激化し、1944(昭和19)年3月、東京都は政府の方針を受け、国民学校児童の疎開を促進します。6月30日、政府は「帝都学童集団疎開実施要項」を定め、やがて戦力となる3年生から6年生の児童を、老人や病人より優先して都市から離すことにしました。

学童疎開はまず縁故疎開をすすめ(深川区 2,712人、城東区 3,069人)、縁故先のない者の集団疎開が強制的で、深川は新潟県、城東は山形県と定められました。両県とも受入児童数は12,000人のところ、深川 15,582人、城東 14,825人で、しかも葛飾区や江戸川区との組み合わせだったので、深川 9,100人、城東 8,800人だけが疎開することができました。

8月4日から9月24日の間に、両国駅、亀戸駅、錦糸町駅から出発。1学級100人に教職員2人、保母4人、作業員3人と地元の医者1人が配属されました。

集団疎開は、初めは45年3月末までの予定が、予想以上の戦況悪化のため1年延長されます。

そのため、6年生は卒業や進学のため3月末までに親元に帰され、新3年生が疎開に合わせるようになりました。

釜屋堀国民学校の児童が、親兄弟に久しぶりに会えると胸をはずませて亀戸駅についたのは、3月3日早朝でした。それから6日目の夜、東京大空襲がおそいかります。

(注)東京大空襲・戦災資料センター(北砂1丁目)の3階「戦争と子どもたち」のコーナーに、卒業式で戻った数矢国民学校の記念写真が展示され、「その10数時間後に大空襲で半数以上が亡くなった」と説明されています。3月9日までには帰京した児童は3,500人余で、その半数以上が犠牲になったといわれています。また、家族が全滅して戦災孤児として戦後を生きた多くの人々がいます。

行事日程	
9月4日(日)13時	(赤門浄心寺)
亀戸事件93周年追悼会	
9月9日(金)	(区内7駅ほか1カ所)
9日の宣伝行動	
9月11日(日)	(南砂2丁目住宅供給公社)
9条守る団地署名	
9時30分・文化センター4F会議室集合	
9月18日(日)10時	(木場公園イベント広場)
土建まつり	
9月24日(土)16時	(総合区民センター)
地域労組こうとう第8回定期大会	

非正規賃金の底上げで、がんばれニッポン! 非正規労働者大集会



区役所や公社、委託先の民間企業で非常勤、臨時職員、パートなど非正規雇用で働く公務員一般労働組合江東支部は7月29日、均等待遇を実現させて日本経済底上げを江東区からスタートさせようと集会を開き、予定を超える94人が参加しました。

「公務」の職場は正職員以外の比率が増えており、江東区役所では非正規労働者が3割を超え、非正規がないと仕事が回らない実情ですが、年収など労働条件は大きな差のままです。

集会では、6月の参院選の主要政党全てが「同一労働同一賃金」を政策に掲げ、7月末の中央最

公務員一般江東支部

集会では、6月の参院選の主要政党全てが「同一労働同一賃金」を政策に掲げ、7月末の中央最

区内の民間322社のパートなどの基本時給平均が1016・9円であることも報告されました。

集会決議は、「最低限の要求」として臨時職員と非常勤の時給引き上げ、勤務年数に応じた昇給、年間3か月の一時金と退職金、超過勤務手当の実績保障などを求めています。

来賓の日本共産党のそ



戦争の体験を話す桐生さん(上)と石倉さん

7月31日、砂町文化センターで「平和フェスタ」が開かれました。「原水禁世界大会」と「母親大会」を応援しよう企画されたもので、日頃の小组などの活動で作成したパッチワークや切り絵などの作品が展示されました。

第一部では、手作りジャムや自宅で作れたブルーベリーの販売やピースカ

第一部では、手作りジャムや自宅で作れたブルーベリーの販売やピースカ

第二部では戦争体験を二人の会員が語りました。

当時3歳だった石倉清美さんが覚えていのは、寝る時には洋服をたたみ枕元に置き、警報で起こされ親に連れられ防空壕へ逃げたことでした。

その後結婚し白河町に住みましたが、夫の父は特別

「平和フェスタ」

2016・原水禁大会日親大会会場

新婦人江東支部

警防隊として「東京大空襲・戦災誌」に「ゲートルを水に浸して」という題で寄稿していました。

当時、防空壕へ避難誘導していた父は「空襲で防空壕も消火訓練も役に立たず、誘導した防空壕でたくさんの方が亡くなった」と悲惨で悲痛な実態を伝えていきます。

車椅子で参加した区内大島生まれの桐生マサ子さんは、戦中・戦後を思い出すのがつらいと述べ「空襲では火が風を呼び、風が火を呼び。翌日自宅に戻ると家はなく、3大小も燃えてなくなっていました」。

最近、戦争という言葉

同映画は、マイケル・ムーア監督がアメリカの医療問題にメスを入れた2007年公開のドキュメンタリー映画です。

国民皆保険制度のないアメリカの医療の実態を映し、その裏にある保険会社の儲け主義を暴いて

「ペン」上野区民センター開催

江東社保協



7月29日、江東区社会保険推進協議会は、映画「シッコ」の上映会を江東区総合区民センターで開きました。昼夜2回の上映で215名が鑑賞しました。

同映画は、マイケル・ムーア監督がアメリカの医療問題にメスを入れた2007年公開のドキュメンタリー映画です。

国民皆保険制度のないアメリカの医療の実態を映し、その裏にある保険会社の儲け主義を暴いて

「まさにタイムリーで衝撃的な映画でした。まだ見てない人はぜひ一見の価値あり」の感想も。

同映画は、マイケル・ムーア監督がアメリカの医療問題にメスを入れた2007年公開のドキュメンタリー映画です。

国民皆保険制度のないアメリカの医療の実態を映し、その裏にある保険会社の儲け主義を暴いて

「まさにタイムリーで衝撃的な映画でした。まだ見てない人はぜひ一見の価値あり」の感想も。

日本では、政府の医療費抑制政策により国民皆保険が徐々に形骸化され、TPPでアメリカの保険制度がより一層導入されるようになっている中、この映画は警告を鳴らしているといえます。